

他人(ヒト)は変えられない 人は変わるもの



商学部長
渡辺 岳夫
Takeo WATANABE

卒業おめでとうございます。長い学生生活もいよいよ終わり、これから多くの人は権限と役割の階層関係から成り立っている「組織」において、少なくとも1日の三分の一を過ごすことになるでしょう。最初に属するレイヤーでは、おそらく自分が自由に振る舞うことのできる仕事のシーンは少ないでしょう。しかし、どんな仕事でも、自分の創意工夫を反映させる余地があります。ある有名なコーヒーチェーンの会社の元社長の話ですが、駅前でコーヒーの割引券を街行く人に配る仕事にバイトが苦戦しているのを見て、代わりに社長自身が配ってみたところ、たった1時間余りで配布しきってしまったそうです。一見、つまらないルーティン業務でも、簡単すぎてつまらないと思えるような仕事でも、心の持ち様や見方を変えれば取り組みがいのあるものに変えることができます。組織において腐ってしまいそうな時には、自分の頭の中にある凝り固まったフレームをチェンジしてみましょう。

さて、そしていずれ諸君は「組織」におけるリーダーになっていくことでしょう。中央大学の卒業生の多くがそうであるように。上位のレイヤーに属するようになると、「組織」が実に人間臭い人間の集団であることを、否が応でも理解するようになるでしょう。人によって価値観、思想、宗教、あるいは善悪の基準などが多様であり、組織のために良かれと思ってしたことが、実際には組織にネガティブな影響を及ぼしてしまうこともあるのです。そういった際に、リーダーとしての皆さんはきっとこう思うでしょう。「他人(ヒト)を組織にとって望ましい方向に変えたい」と。しかし、他人(ヒト)は変えられません。人は自らの意思によってしか自らを変えることはできないのです。つまり人は変わることにしかできないのです。リーダーとしてのあなたができることは、人が自ら変わることができるような環境や条件を整えてあげることです。他人(ヒト)を変えられないと嘆いたり、自分の周りにはどうしてこんな他人(ヒト)ばかり集まるのだと不満を漏らしたりするべきではありません。それらは、自分にはリーダーとしての資質がないということ、周囲に知らしめる効果しかありません。

自分を変えられるのは自分だけです。たとえ毎日する仕事と同じでも、心の持ち様次第で、その仕事に対する取組みを変えられます。心の持ち様を自ら変えることができるような、そして他人(ヒト)が心の持ち様を自然に変えることができるような環境を創ることができるような、そんな人を目指しませんか？



理工学部長
檜山 和男
Kazuo KASHIYAMA

理工学部卒業生および理工学研究科修士課程修了生の皆さん、ご卒業・ご修了誠にありがとうございます。後楽園キャンパスでの学生生活はいかがでしたでしょうか？皆さんは、4月より就職して社会に出られる方、あるいは引き続き大学院に進学される方に大別されると思いますが、主に最終学年に行った卒業研究および修士論文研修を通じて培った専門のスキルに加えて、ディプロマポリシーで謳っている、コミュニケーション能力、多様化する要求への対応力、新しい課題への挑戦力等を兼ね備えた人間に成長したことと期待しております。

今年度は、産業界において、大手製鋼会社のデータ改ざん問題や自動車会社の無資格検査問題など、企業の倫理(コンプライアンス)が問われる象徴的な事件が数多く発生しました。また、研究分野においても論文のねつ造問題が再びニュースとして大きく取り上げられました。このような事件を未然に防ぐには、技術者・研究者の一人一人が高い倫理観をもち、組織の中で日々それを実践すること以外に方法はないと言えます。皆さんは、これらの事件を、後の発覚は組織および個人に取り返しのつかないダメージとなるという悪い見本(教訓)として捉えて、是非、高い倫理観を持って日々元気にご活躍ください。

理工学部および理工学研究科の卒業生・修士課程修了生はこれまでに約6万人を数え、大手民間企業や公務員(技術職)等でトップとなられた方も多数おり、様々な分野において目覚ましい活躍をしております。皆さんも先輩方の後に続いて、中大理工の名声をさらに高めてください。

最後になりますが、理工学部では、これまで多摩キャンパスでしか開催されてこなかった「ホームカミングデー」を、後楽園キャンパスにて来年度の大学祭期間中(2018年11月)に「理工ホームカミングデー」として開催する予定です。是非、元気な姿で再び後楽園キャンパスに戻ってきてください。皆さんのご活躍を心より祈念いたします。飛び立て中大理工生！

高い倫理観をもって飛び立て中大理工生！